労働運動一筋60余年

港合同　大和田幸治さん逝く

戦後港区で中小企業の労働運動をリードした全国金属機械労働組合港合同田中機械支部（南市岡）執行委員長の大和田幸治さんが三月十七日、入院先の病院で亡くなりました。享年八五。

労働運動に生涯を捧げた大和田幸治さん（写真は2010年夏「大空襲の体験を語る集い」で）

◆数々の争議を指導

大和田さんは一九二七年天王寺区に生まれ、一九四六年、南市岡の三菱化工機（後の田中機械）に仕上げ・組立工として入社、労働組合に加入。執行委員、副組合長などを歴任。社外工の本工化や女性差別賃金撤廃など全国的にも先進的な労働条件改善を次々と実現しました。六四年には全金加盟を果たし、港合同事務局長、田中機械支部委員長に就任。六五年には資本のロックアウト、第二組合結成・分裂攻撃を打ち破り、六七年に統一。以後、数々の労働組合結成や労働争議を指導してきました。

◆歴史的な田中機械闘争

とりわけ自らの職場である田中機械㈱を舞台に闘われた「破産突破闘争」（一九七八～一九八九年）では、企業による自己破産、全員解雇、暴力団を使った脅し―など資本の総力を挙げた攻撃に対し、工場占拠・自主生産などの実力闘争を基軸に、地域労働者との連帯、さらには法廷闘争をも結合させて絶対不利な局面を打開。歴史的な勝利に導き、日本労働運動に「港合同田中機械支部」の名を轟かせました。そして、この勝利を以て港合同は名実ともに関西の中小労働運動の拠点となりました。

◆高齢でも第一線で

大和田さんは高齢に達しても第一線に立ち続けました。〇三年には本紙「戦争体験」欄で自らの空襲体験を語り、アメリカの戦争犯罪を糾弾すると共に、戦後左翼運動の弱点をも鋭く指摘しました。東日本大震災後には平和と福祉を掲げるNPOみなと代表理事として「大空襲の体験を語る集い」に出席、原発災害の根本原因である戦後社会の在り方に警鐘を発しました。

◆闘争が紡いだ名言

こうした六十数年の闘争から紡ぎ出される一言一言には千金の重みがあり、「会社はなくなっても労働者の生活権・団結権はなくならん」「企業の塀を越えた地域共闘が労働者を守る」「争議支部は闘いの学校」「労働者は仲間を裏切らない」「受けた恩義は運動で返す」などの名言は今なお労働者の心に生き続けています。

◆最後まで指導続ける

港合同組合員によると、亡くなる一週間前の学習会では橋下市長の団結権破壊に反撃の檄を飛ばし、三日前まで組合事務所で指導を続けていましたが、入院から僅か二十時間後の三月十七日午前八時十一分、組合員に見守られながら息を引き取りました。闘争に明け暮れた活動家に相応しい、壮絶かつ堂々たる最期だったということです。

ぎょろりと凄味のある目、寡黙だが素朴で分かり易い言葉遣い、そして時折はにかむようにこぼす笑顔が印象的だった大和田幸治さん。文字通り全てを労働運動に捧げた生涯でした。

著書に『企業の塀をこえて』（二〇〇一年アール企画発行）など。

催しガイド

■ベーカリーカフェ「あいらぶ工房」5周年感謝セール　四月二十七日（金）十～十六時。ろう重複障害者の働く場「あいらぶ工房」が二〇〇七年四月にオープンして五年。日頃からの地域への感謝を込めてパン全品百円で販売（食パン・喫茶・クッキー除く）。売り切れ次第終了。問合せは同工房（港晴一―七―四、港晴小学校南西向かい。TEL四三九五―七五八八、FAX四三九五―七五八九）へ。

■ワークみなと「東北食品市」　東日本大震災で被災した福島県いわき市の障害者作業所が作った食品を販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第二・第四火曜十五時半～（売切御免）。地元産の材料と昔ながらの製法による体と心にやさしい豆腐・ケーキ・抹茶・レーズン等▽ワークみなとは就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所（夕凪二―六―三、TEL・FAX六五七一―七五一一）。

■「放射能と原発―知ろう、語ろう、行動しよう」第3回　DVD『もんじゅ　明かされた真実』等の上映・学習・感想会。四月二十一日（土）十四～十六時、三里塚産直野菜の会（磯路二―三―九三社神社南すぐ）で。参加無料。☎六五七二―〇一三〇同会。

■自閉症児を応援する気エネルギーワーク　プロの気エネルギー療法士が「自閉症児の体や心が少しでも楽になれば」と続けている。「気楽な参加」を呼びかけ。参加費無料。要予約。毎月第二・第四土曜（四月二十八日、五月十二、二十六日）十五～十八時に松井整骨院内で。弁天四―一〇―二六、☎六五七二―一一六五。

■ムチ打ち（首・腰）無料相談会　四月二十二日（日）十～十八時に行政書士のむら事務所（築港三―七―一―六〇八）で。交通事故でムチ打ちになった被害者が対象。一人約一時間。「どうしたら正当な補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」（同事務所・野村光恵さん）。電話（六五七六―六〇七八）かEメール（info@jiko110-nomura.com）で要予約。

■弁天小学校50周年合同同窓会のお知らせ　四月二十二日（日）十四時～十五時半に同校多目的室（講堂上三階）で。対象は第一期～第二十五期卒業生（昭和三十七年四月二日生まれ～同六十二年四月一日生まれ）。主催は弁天小学校創立五十周年事業準備委員会。連絡は同校中村教頭（☎六五七三―五八一一）まで。

■GEN（緑の地球ネットワーク）　中国山西省の黄土高原で九二年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。次のような協力方法がある。①会員になる―年会費一万二千円②会報を購読する―年間二千円③絵はがき『黄土高原の花』を購入する―八枚組三百円④ビデオ『よみがえる森』を購入する―三十分五千円⑤黄土高原ワーキングツアーに参加する―そのつど案内⑥GEN自然と親しむ会に参加する―五月十三日（日）十時～十五時半、太子町の人工林を間伐し里山保存に貢献（参加費三百円、申込締切五月八日）▽いずれも詳細はGENの事務所（市岡一―四―二四―五階、☎六五七六―六一八一）へ。

読者コーナー

読者の皆さんの投稿を歓迎します。内容は自由ですが、掲載・不掲載の決定や文章上の調整は本紙で行ないます。匿名でもかまいませんが、内容確認などのため、必ず本紙と連絡がとれるようお願いします。手紙かハガキかファクスで送って下さい。

人間の知恵？

（池島1・勝部泰臣78歳）

一年前のあの災害で二つの「世界一」が崩れた。ギネスも認めた宮古市の防波堤。そして「世界一安全な日本の原発」。防波堤を信じた人は逃げ遅れ、昔からの云い伝え「てんでんこ」を守った人は助かった。原発はどうか。フクシマの名と共に、電源と冷却機能が無くなったら原発はたちまちあんな重大事故になるんだと世界の多くの人が知ることに。テロに脅えるアメリカはオ大統領が核テロに対処をと叫ぶ。原発主導国はあんたの国じゃないの。放射能汚染、廃棄物処理…何一つ先が見えていない今、やれ停電になったらどうする、経済の停滞で諸外国に後れを取るだのと目先の事だけしか考えない推進派。サミットで日本の首相、「人間の知恵が問われている」と。世界唯一の核被爆国として、この災害を教訓に、脱原発へ舵を切り換えることこそ、長い目で見た「日本人の知恵」だと思う。

瓦礫受け入れでなく人の受け入れこそ！

（市岡元町・56歳男性）

先日、ある集いで、子どもを被曝の危険から守るために福島から大阪へ移住してきた人の話を聞きました。既に我が子には甲状腺被曝の症状が出ているとのこと。その中で今、岩手の瓦礫を大阪に受け入れる話がありますが、その人は「放射能は拡散すべきでない」と話しておられました。そうではなく、被災者のこれ以上の被曝を防ぐには「人を受け入れてほしい」、また、地元を離れることが出来ない現地の人たちには「汚染されていない安全な食物を送ってほしい」と。陸前高田で地元の人を守るため奔走しておられる市長は「瓦礫を地元で処分したい。その方が地元に雇用が生まれ、復興に繋がる」と。しかし、そのことを国に伝えると、「認可に二年以上かかる」と規制されたそうです。では、何のためにわざわざ広域処理するのでしょう。そこには、受け入れを表明した静岡県の島田市長が地元の産廃業者の重役であることから分かるように、阪神大震災の時の数倍の単価で利益の上がる公共事業（税金が投入される）の奪い合いがあります。政府の美談や報道のからくりに惑わされることなく、真実を見抜き、被災地のために本当に役立つ行動を起こしたいと思っています。

無駄な配布なくして少しでも経費節減を

（区内・男性読者）

毎号、庶民の立場に立った報道姿勢に感心しながら読ませてもらっています。それだけに、経営が大変だという訴えには心が痛みます。そこで、部数を減らして経費を少しでも節減したらどうでしょう。私の見るところでは、真面目に隅々まで配布し過ぎて、無駄もあるように感じますが…。

〈**港新聞から**〉節減は経費の全分野で行なっており、戸別配布にもバイトを雇わず、また名前のないポストには入れないなどの調整をしていますので、これ以上は難しいと考えます。ただ、真摯で温かなご提言には心から感謝します。

読者の作品から辻悦子さん（市岡元町3）の絵手紙

生活保護の裏面の取材もほしかった

（池島・60代男性）

「増え続ける生活保護人口」（前号1面）を読んで。受給者が増えていることは分かりましたが、生活保護を奨励しているようにも受け取れました。私が知っている受給者の中には、仕事が出来るのに昼間から酒を飲んだりパチンコをしたりしている男性、服を買いまくっている女性などがいます。確かにぎりぎりまで我慢した末に申請する人も多いとは思いますが、国や自治体の財政が苦しい時に、こういう無駄な支給もあるという裏面の取材もしてほしかった。

〈**港新聞から**〉ご指摘のような事実は本紙も把握していますが、この記事では、政治による貧困化の深まりと、真面目に働いている限り生存権は保障されなければならないという点に関心を集中してもらうことに的を絞りました。詳しく読んで頂き、感謝しています。

子や孫に自分の人生をのこそう！
お話をききとり、冊子にしてお渡しします。
島根県から上阪し、金属系企業で働きながら労働運動にも力を注いできました。全国的な運動退潮の中、10数年前に第一線を退きましたが、この間の経験と教訓がいつの日か運動の再興に役立てばとの思いから港新聞に相談し、冊子にしてもらいました。（70代男性）
400字（原稿用紙1枚）で千円が標準料金です。
★文書全般の代筆も承ります★
港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

GWは家族写真！
4月28日～5月6日限定
お楽しみ抽せんあり
入園・入学のあと撮り
母の日の前撮りOK

みなさまの写真スタジオ
三上写真館 Photo Studio MU
機路2-3-14（市岡中前）木曜定休
0120-813788
至弁天ふ頭　港区民センター　港消防署　中央大通り　弁天町駅　至朝潮橋　三社神社　ココ　市岡中学　至みなと通り
http://www.photostudio-mikami.com

税金・融資のことなら…1人で悩まず
港民主商工会
労働保険のご相談も民商へ！
港区夕凪2-10-16 ☎6572-7867

交通事故のお悩み
どんな事でも相談下さい
自転車事故もお気軽に
行政書士のむら事務所
築港3-7-1-608 ☎6576-6078
http://www.jiko110-nomura.com/